

ステンレス車両が誕生 60 年を迎えます

株式会社総合車両製作所(本社：横浜市金沢区、代表取締役社長：宮下直人、以下、「J-TREC」)の前身である東急車輛製造株式会社が製造し、1958年12月1日に営業運転を開始した日本初のステンレス鉄道車両(東京急行電鉄5200系)が、誕生60周年、人に例えれば還暦にあたる節目を迎えます。車体に使われるステンレス材は、汚れが落ちやすく、錆びにくく、また塗装なしでも長期間美観を保てるのが大きな特徴です。結果として、車両の保守も容易で、車両のライフサイクル全体でのコスト削減を可能としてきました。

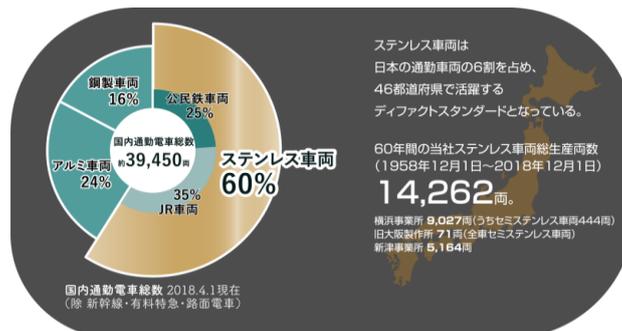
この優れた特性が、多くの鉄道事業者の方々に広く受け入れられ、現在ステンレス車両は国内通勤電車総数の約6割を占め、デファクトスタンダードとなっております。これまでに当社が製造したステンレス車両は約14,000両にのぼり、これもひとえに、お客様をはじめとする多くの方々の格別のご愛顧、ご支援の賜物で、心より感謝し御礼申し上げます。

これからもJ-TRECはステンレス車両製造のパイオニアとして、高い技術力と経験にもとづく確かな品質を備えたステンレス車両のブランドである“sustina”を国内外に提供してまいります。

なお、5200系車両は、1986年に東京急行電鉄株式会社から上田交通株式会社(現：上田電鉄株式会社)に譲渡、1993年まで使用され、現在はJ-TREC横浜事業所構内に1両(日本機械学会から機械遺産に認定)、上田電鉄株式会社に1両静態保存されています。



60年経過してもいまだ輝きを失わない東京急行電鉄5200系(2018年11月26日現在)



国内通勤電車総数(2018年4月1日現在)